

給食週間（1月24日～30日）

給食主任 松尾 祐佳

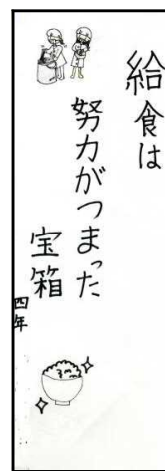
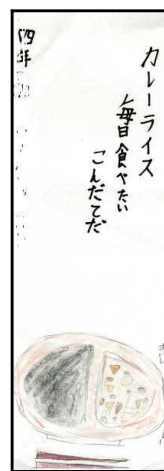
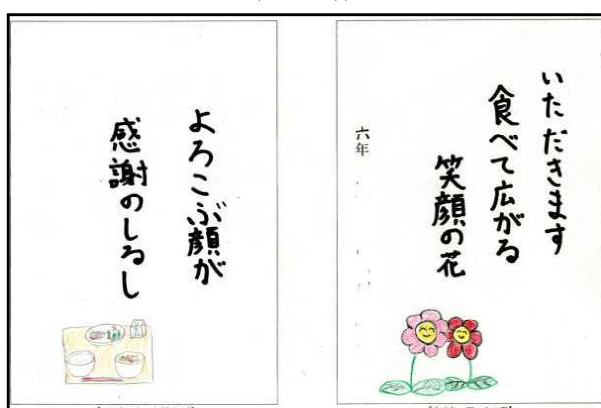
1月24日から全国学校給食週間が始まりました。本校でも、給食委員会の児童が中心となり給食週間を実施しています。給食に関する作品募集や、校内放送の発表を通して、感謝して給食をいただくことの大切さを伝えています。

給食委員の児童は、事前に栄養士さんと調理員さんにインタビューを行いました。そのインタビューの中で、「給食がきれいになくなって、運搬車が戻ってくると嬉しい。」「残食があると、風邪をひいたりしないか、みんなの健康が気になる。」「という栄養士さんや調理員さんの話が心に残り、感謝の言葉を伝えること、全校のみんながきれいに残さず食べることも感謝を表す大事なことだと考えました。そこで、今年度は、給食を片付けておられる映像を全校に広め、「片付けピカピカ大作戦」を企画しました。給食を作ってくくださる方々への感謝の気持ちを育み、さらに、残さずきれいに食べることで健康な体づくりにつながることを願っています。私自身二人の息子の母ですが、「おいしかった。」とお皿がきれいになると嬉しく、今度は何をつくろうかとかがんばれます。ご家庭でも、給食週間について話題にさせていただき、食事を作る側の気持ちを伝えていただけるとありがたいです。

< 4年生の作品 >

< 3年生の作品 >

< 6年生の作品 >



1・2年生は感謝の手紙 3年生は給食キャラクター 4・5年生は標語 6年生はかるた

昔のくらしを体験したよ！

3年学年主任 藤森 優子

3年生は、今、社会科で、「かわってきた人々のくらし」について学習しています。初めは、教科書の挿絵を見て「昔は、わざわざ火をおこして料理をしていたんだね。どんなふうになっていたんだろう。」「石に棒を挿した物（石うす）を回しているけど、何をしているのだろう。」など、名前や使い方の分からない道具を見付け、昔のくらしや古い道具に興味をもちました。調べていくうちに、「実際に道具を使ってみよう！」ということで、洗濯板とたらいを使った洗濯にチャレンジしました。実際に、体験してみたことにより、今のくらしとの違いに目を向け、作業の大変さだけでなく、今の便利な時代のありがたさ等、たくさんの気付きがあり、体験することのよさと、子供たちの感性の豊かさを感じました。



< 子供たちの感想より >

せんたく板を使ってするのは、むずかしかったけど、ごしごしあらうのが、すごく楽しかったです。よごれが取れてきれいになって、うれしかったです。

おばあちゃんが、「昔は、家族が多かった。」と言っていたので、家族全員分の服をあらうのはとても大変だったと思います。昔の人は、努力してくらしていたんだと思います。

わたしは、あらった後に手がいたくなりました。自動でせんたくできるのがふつうだと考えていたけど、これからは、自動が楽なことをうれしく思いたいです。